

第60回 日本医学検査学会

シスメックス株式会社 学術本部

去る6月4～5日、東京国際フォーラムにおいて、第60回日本医学検査学会が開催されました。今学会は、宮島喜文学会長（長野県立木曽病院）のもと、メインテーマを「未来に繋がる臨床検査の創出」、サブテーマを「社会への還元を目指して」として開催されました。iPS細胞を用いた今後の医療についての特別講演をはじめ、各分野の教育講演やカンファレンスに多くの方々に参加され、大変盛況な学会でした。

本学会では弊社の新製品に関して、多くの話題が提供されました。一般演題では装置から提供されるデータの臨床的な価値と評価結果、これらシステムを用いた最適な運用の具体例とその価値について議論がなされました。弊社からは将来的な医療環境の変化を見据えた新製品のコンセプト、製品のみでなくサービス・サポートを組み合わせた最適な臨床検査環境の実現についてご説明いたしました。

本レポートでは、本学会における弊社に関連する最新のトピックスについて、報告いたします。

一般演題

新製品である多項目自動血球分析装置XNシリーズが、国内学会で初めて演題発表されました。XNシリーズで向上した性能はもちろんのこと、それぞれの演題では独自の切り口で評価と解析がなされ、XNシリーズにより提供されるデータの臨床的価値について、発表されました。

東海大学医学部附属病院の田中先生からは、臨床的に重要な低値血小板、低値白血球の定量値の信頼性を裏付けるデータが示されました。また、再検率が下がることが期待され、これらにより、臨床検査の質向上と効率化を同時に実現することができることが報告されました。

慶應義塾大学病院の片桐先生は、XNシリーズで新規搭載されたPLT-Fチャンネルでの低値血小板測定の基本性能を中心に報告され、PLT-Fは免疫学的測定法である抗CD61抗体を用いた測定法と高い相関性があることが

示されました。PLT-Fチャンネルでは抗体を使用しないため、低コストで免疫学的測定法と同等の血小板測定を行うことが可能であり、検査業務を最適に運用できるようになることを期待するコメントもありました。

高知大学医学部附属病院の阿部先生は、XNシリーズの基本性能を中心に報告されました。1,000例を超える検体を用いて臨床参考範囲を検討し、これまでに用いられている値と同等の臨床参考範囲が得られたことが報告されました。これにより、臨床参考範囲を変更することなく、より高性能なXNシリーズを各施設でご利用いただけることが示されました。また、実際のスキュアグラムを提示しての説明には、参加者も興味深く見入っている様子でした。

全自動尿統合分析装置UX-2000では、岐阜市民病院の一柳先生より装置の基本的性能である同時再現性、キャリーオーバーおよび既存製品（UF-1000i、クリニテックアトラス）との相関性を検討し、良好な結果が

得られたことが示されました。UX-2000 は尿定性と尿中有形成成分分析が一体となった装置ですが単純に二つの装置を合わせただけの性能ではなく、尿定性と尿中有形成成分分析を一つまとめたことによるクロスチェック機能やデータ管理などの性能の向上についても報告されました。

金沢赤十字病院の油野先生からは「臨床検査情報としての尿定性・尿沈渣・尿中有形成成分情報のあるべき位置づけ -尿統合分析装置の果たす新たな可能性-」について、教育的な観点から発表がなされました。尿検査は成分分析や分類そのものが目的ではなく、病態情報の提供が前提にあることを踏まえ、自動化の意味合いと位置づけが示されました。また、UX-2000 の使用経験についても報告され、定性結果と有形成成分分析結果のクロスチェックにより、正確な検査結果を報告することが可能となること示されました。

弊社がコンサルティングを実施した名古屋大学医学部附属病院 吉子健一先生からは、ISO 15189 臨床

検査室認定を取得したことによる効果について発表されました。2009年11月にISO 15189 臨床検査室認定を取得してから現在に到るまでの、ヒヤリ・ハット報告の分析、苦情件数の分析などを行い、品質マネジメントシステムによる効果を調査されました。その結果、患者様への影響が懸念されるような問題は減少傾向にあることが示されました。また、品質マネジメントシステムの運用業務の効率化を目指して、グループウェアを核とするクラウド型の業務支援ツールに関する当社との共同研究についても発表されました。

ランチョンセミナー 3

「次世代へ向けた自動血球分析装置の展望」という演題で、XNシリーズの開発段階から共同研究をしてくださいました京都大学の志賀先生にご講演をいただきました(座長：川崎医科大学 通山教授)。



演者 京都大学医学部附属病院 検査部 志賀修一 先生



座長 川崎医科大学検査診断学 教授 通山 薫 先生



ランチョンセミナーの様子

血球分析装置の発展の方向性として、XNシリーズの特徴でもあるクリニカルバリューとユーザビリティについて、ご使用経験をもとにお話しいただきました。

現在XEシリーズやXTシリーズをご使用いただいている先生からの新製品の性能や仕様に関する質問や、プロトタイプ機を評価いただいているご施設からの具体的なデータをもとにしたご意見もあり、ご参加くださった皆さまにはXNシリーズによる、より最適な臨床検査業務の構築をイメージしていただけたのではないかと思います。

セミナーには250名を超える方々にご参加いただき、立ち見が出るほど大変盛況で、XNシリーズに対して高い注目をいただくことができました。

出展社プレゼンテーション発表会

「全自動尿統合分析装置 UX-2000 が拓く新しいワークフローの実現とサービス・サポート」というテーマで、尿検査をとりまく環境を分析し、製品のみでの提供ではなく、サービス・サポートをともに提供させていただくことのメリットをご説明いたしました。また、尿定性と尿中有形成分分析のデータを一台でご提供する装置となっていること、臨床検査データを安定的にご提供し、安心してご使用いただくためにSNCSなどのサービス・サポートを充実させていることをご説明いたしました。さらに、多くの

お客様にご利用いただける尿検査の効率的な運用についてもご提案いたしました。

発表後には実際の装置を見てみたいというお声をいただき、展示ブースにたくさんのお客様が足を運ばれていました。

一般展示(展示ブース)

新製品である多項目自動血球分析装置 XNシリーズ、全自動尿統合分析装置 UX-2000 および弊社のサービス・サポート商品を展示、説明し、多くの先生方にご来場いただきました。

XNシリーズは、今回、国内で初めて学会展示させていただきました。実際の新製品を見ていただきながら、当社が提案する新しい検査の考え方、XNシリーズのコンセプトをご説明いたしました。装置の性能やSNCSを使った故障予知システムといったサービス・サポートのみならず、使いやすさの追求や環境面への配慮といった、XNのユーザビリティについても実感していただくことができました。

UX-2000については、尿定性と尿中有形成分分析が一体化された装置でありながら省スペースであるという点、弊社のサービス・サポートによる安心、安全な検査環境の実現といったコンセプトをご説明しました。お客様にご施設での検査フローの改善など具体的な導入後のイメージを抱いていただくために、運用についてのご相談もさせていただきました。



出展社プレゼンテーション発表の様子
(学術本部 学術部 水野部員)



シスメックス展示ブースのヘマトロジーアナライザー